

子どもの発達と絵本



(1) 研究の動機

私は、将来保育士として働くことを考えており、子どもの発達の過程について勉強をしている。どれくらいの年齢でどのような絵本が適しているのかなど、特に絵本との関係について研究をしたいと思った。

(2) 研究の方法

- ① 教科書『子どもの発達と保育』で各年齢の子ども（乳幼児）の発達について調べる。
- ② 本屋で各年齢におすすめされている絵本をそれぞれ5冊ほど読んで特徴をまとめる。

(3) 研究の結果

① 子どもの発達のみやす

年齢	0歳	1歳	2歳
感覚・知能	味・匂い・温度・ 明るさ・音に反応	パパ・ママという 自分の名前がわかる	2語文をいう
情緒	快・不快 恐怖 声を出して笑う 人から見られると恥ずかしさを感じる 警戒心 やきもち	人から評価されること を喜ぶ	おもちゃや服を見せびらか して得意になる
愛着・社会性	愛着関係が形成される 人見知り	親の顔色を伺いながら いたずらする	言い聞かせれば我慢する

3歳	4歳	5歳	6歳
自分の名字・名前を言う	長い・短いがわかる ほぼ普通に話せる	自分の名前をひらがなで 書く	ひらがなをほとんど読める
一度期待を持たせてしまうと だましがきかない	褒められると得意に なって説明する 情緒のコントロール ができる	かわいそうな話を聞くと 涙ぐむ	小さい子や弱い子のめんどうを 見る
親から離れて友達と遊ぶ時間 が増える 友達と順番にものを使う	かくれんぼなど、役 を理解して遊ぶ	じゃんけん勝ち負けが わかる 禁止されていることを他 の子がすると注意する	取り合いになったときに子供同 士だけで解決する

0歳

カラフル

文字が増える

長いお話

文字が少ない

ストーリー性

6歳

「子どもの発達のみやす」
の表から、各年齢に向けた
絵本には左にある図のよう
な特徴があると予想した。

② 近くの本屋でおすすめされていた、各年齢に適した絵本の特徴

*6歳向けの絵本はなかった。

*4歳と5歳は、「4・5歳向け」となっていた。

0歳	1歳	2歳	3歳	4・5歳
カラフル				
1 ページに 単語 1 語	1 ページに 1 から 2 文	1 ページに 2 文	1 ページに 2 から 3 文	1 ページに 3 から 10 文
擬音語多い				
	リズムカルな文			
		登場人物にセリフ		
		少し ストーリー性	ストーリー性	
繰り返し			繰り返す ものもある	
	野菜、乗り物、動物などが 主な登場人物		友達、母親などが 主な登場人物	
			社会性	登場人物の 心情描写
				長めのお話

(4) 研究の考察

0歳から2歳ごろに向けた絵本は、形がはっきりした鮮やかな色合いの絵本が多かった。特に0歳は、明るさや音を感じる能力が発達する時期なので、絵本を読み聞かせることは大切だと思う。1ページに載っている文字は、年齢が上がるにつれてだんだんと増えていった。2歳ごろまでは擬音語やリズムカルな言葉が多かったが、言葉の発達が著しい2・3歳頃向けの絵本からは、登場人物にセリフがあり文章が増えた。3歳になると友達と遊ぶ時間が多くなるので、3歳向けの絵本には、友達におもちゃを貸してあげるお話のような社会性の強いものが多かった。私は最初、起承転結のはっきりとしたストーリー性のある絵本がわかるようになるのは6歳頃からだと思っていたが、3歳頃からストーリーを理解し、4・5歳では長いお話を読めることがわかった。このように、それぞれの年齢によって適した絵本は異なるので、大人が子どもに絵本を読み聞かせる時には発達段階を踏まえて選ぶことが大切だと思った。また、絵本は子どもにとって言葉や心の発達を促すために必要であり、読み手とのコミュニケーションのきっかけにもなるものなので積極的に読み聞かせをおこなうべきだと思った。

(5) 参考文献

『子どもの発達と保育』 帆足英一 実教出版株式会社 H29.2.21 検定済

